

---

# とある男の旅物語

UMA

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

とある男の旅物語

### 【Zコード】

Z9840Y

### 【作者名】

UMA

### 【あらすじ】

これは、とある男の物語。

少年は、その心に強い思いを持つて旅に出る

## プロローグ

これはとある村のとある家の出来事。

「父さん。俺は父さんのようになりたい。だから強くなる。  
少年は3つの人物が写った写真に向かって語りかける。

「母さん。俺は母さんのようになりたい。だから優しくなる。

でも、それだけだと強くなれないのは解ってる。だから僕は旅に出るよ。

いろんな人とであつて、仲間も増えると思う。  
それでも、俺は人のためにあり続ける。この思いだけは曲げないから。たとえ偽善としても。

弱い人は守り。苦しんでいる人は助ける。間違っている事をしていたら注意する。

たとえそれが自己満足だとしても、それを俺はやめない。

俺は、人の笑顔が好きだから

」

ここで一人の少年が誓う。

今は亡き、父と母に向かって。

この少年にはこれから大きな困難が訪れるだろう。

その事を一番わかつているのは、この少年だ。

それでもこの少年は歩みを止める事は無いだろう。

それがこの少年の旅なのだから。

## 世界設定

この世界の大陸

ガルデシア大陸  
特に魔物などが多い。

山や、森、湖など自然が良く残っている大陸。

魔物や動物などが住みやすい。  
人があまり寄りつかない。  
なので、人を嫌う種族は好んで住む。

サー・レイン大陸

特にエルフが好んで住む  
精霊が多い土地が多いので魔物はほぼ居ない。  
居たとしたらとても強い魔物だけ。

ここも自然が多いがガルデシア大陸よりは少ない。

キフェレスト大陸

ここは不思議なところで砂漠と森が隣り合わせの土地。  
砂漠は暑く森は寒いと人には住みづらい土地。

## 種族

人

普通の人

エルフ

耳のとがつた人。精霊と契約が出来る。

ドワーフ

背が小さく力が強い人。  
鍛冶などが得意。

獣人

普通の人に動物の耳と尻尾がある感じ。

その動物と同じような動きが出来る。

魔物

人を襲う動物を総称してこう言つ。

ギルド

旅に出る者は絶対に所属する組織。

ここではクエストなど受けて金を稼げる。

ランク

ギルドでは強さによってランクが決められる。

ランクは

G F E D C B A S S S S S S S EX SP

となる。

Gが一番下でSPが一番上である。

このランクは魔物の強さと比例している。

## 主人公設定

物語と同時進行

名前

?????????????

歳  
3歳

ギルドランク

??

ステータス

力量  
10

速度  
15

守備  
8

技術  
4

魔力  
?

魔力	技術	速度	守備	力量
10	30	55	60	60

普通の成人男性の場合

冒險者【ギルドランクE】の場合

魔力	技術	速度	守備	力量
5000	6500	8000	1400	1300

魔法使い【ギルドランクE】の場合

魔力	技術	速度	守備	力量
1200	1000	500	600	600

人間のステータス限界値

魔力	技術	速度	守備	力量
5000	4000	4500	5000	5000

転生者

神様から特別な力をもらっている。

## 特性

### 転生者

事件やイベントが起きやすい。主人公体質になる【誰かを犯したい】などの願望を持つていなかつたら転生者ならだれでも付く

### 成長限界突破

頑張れば、若返りや不老にもなれる。  
それに伴つて強くなるので。

ほぼ不老不死状態。

### 能力コピー

相手の能力を自分のものに出来る。  
しかし、相手から一定以上信頼されていないと  
コピーが出来ない。

また成長限界突破だけなら条件付きで相手に「コピー」させる事が出来る。

### 二つ目

? ? ?

転生者である。

神様の間違いで死んでしまったため、異世界へ転生する。  
神様からは特別な力をもらつた。

もらつた力は上の通り。

## プロローグ ?

俺は転生した。

いや……ね？ そんな変な人を見るような眼をしないで？ 悲しいから。ま、まあ、とりあえず俺が転生したって事だけは覚えていてほしい。

そしてこれが前世での人生だった。

俺は孤児だった。そこで施設で18年間育てられた。

それからの生活は楽しい物だった。

株をやつてみたら成功。莫大な金を手に入れた。

それを使って会社を立ち上げる。

2年ぐらいたつて、作った商品が大ヒット。

さらに大きな会社を立ち上げる。

さらに商品が大ヒット。

日本一の大きな会社になり、彼女が出来る。

彼女と結婚、子供が生まれる。

初めての挫折。会社の商品が今までの40%しか売れなくなる。

10年かけて会社を立て直す。

2年後、完治不能の病気を患う。

1年後、死期が近いと感じ、世界中の孤児や生活の出来ない人々に支援金を送る。

半ヶ月後、家族に惜しまれながらも、死亡

大体纏めるところの様な感じだった。まあ、正確にはこんなに良い事だらけの人生じゃなかつたけど。

まあ、そんな訳で死んだわけだが……

神様と名乗る人が現れて。

『お前は最後に人々に生きる手段と希望を与えた。

そこで褒美としてお前の5つの願いを叶えて、知らない世界に

転生をしてあげよう。』

と言った。

これでも俺は転生などと言つ物語が好きだったのでとてもうれしい物だった。

「」で俺は願いをとりあえず二つ言った。

「とりあえず、俺の子孫を仕事などで成功するようにしてくれ。  
もうひとつは俺の子孫たちが、悪い心を持たないようにしてくれ。」

「

『「」で言つた悪い心とは、誰かを殺したいとかそういうことだ。』

さすがに完璧な善人の人格にしてしまつと氣味が悪いからな。

「あとは………そうだ！神様。その世界つて、何か魔物みたいなものが出てたりするのか？」

『ふむ………そういう世界が良いのか？』

「ああ…」

『それじゃあ、そういう世界に転生させてあげよっ』

「よつしゃーそれじゃ、成長限界突破の能力をくださー！」

『ふむ………良こじやうひ』

「あとは………『』能力！これを下さい！」

『そりだな、良いだろ？しかし制限つきだからの？後おぬしは解つておらんようだが、そのような能力を持つと一生独り身になるぞ？もし、番になる物が出来ても、おぬしは古いねから、相手の者が先に死んでしまうぞ？』

「……ホントですか？」

『「つむ』

「えっと、それじゃあ…………そうだ」コピー能力を応用して相手に成長限界突破の能力を「コピー」できるよつこしてください」

『わかった、それでは、送るぞっ。』

「はい、よろしくお願ひします」

『それでは、おぬしを送る。第一の人生。生き抜いて見せよ』

「はいー。」

と、じつじつ風に俺は転生をした

俺が転生してから初めて見た風景は、奇麗な美人の顔だった。

たぶんこの人が母親だらうな とか思いながらも、頭の中ではいろんなことを考えていた。

予想だが、ここにはRPG風の木で出来たような家だと呟つことと、ここが俺の第一の人生の家だと言う事は分つた。

後はなんだろうか？首が据わって無いのか思うように動かせない。

後もう一つ発見した。

母親であろう人物の髪の色が金色。

そして自分の髪の毛の色がなんか変だ。前髪の部分だけが見えるのだが、俺の髪は赤色だと言うのは解つた、しかし何故か前髪の一か所が金色になつてゐる。

まあ、今の状態だと、どんな髪の色かなんてほとんど解らないんだけど。

卷之三

16

あれから3年たつた。

といえども俺に容姿を言おう。

とりあえず顔だがイケメンだ。これは親からの遺伝だな。

次に髪形。

全体的に赤毛だが前髪の一部が金色だ。これも遺伝なのか知らないが、たぶん遺伝なんだろう。それに、母さんが喜んでいたし良しとする。

体格は普通に3歳時よりちょっとがっしりしているぐらいかな？  
とりあえず平均よりは大きいと思つてくれ。

後は、親の事だが、母親は金髪ロングのすごい美人。

次に父親だが赤毛の体のがっしりした人だった。  
始めてみたときは結構びっくりしたね。  
目の前に巨人が居るのかと思つたよ。

まあ、心やさしい my father (私の お父さん) なんだ  
ど。

今俺は、外を駆け回つている、いや、なんかね？子供の姿になつた  
からなのか、精神が体に引っ張られているのかな？  
とりあえず、遊びたい盛りなのだ。

あと、3歳で駆けまわれるかと言つと、これぐらいが普通らしい。  
地球だったら歩くことはできても、走り回るのは5歳ぐらいだと思  
うんだけどね。

後ろから僕を追いつ影が一つ。

幼なじみに成るであろう少女、サーニャ・クロイフちゃん3歳だ。

どいつも親同士の中が良く、必然的に僕たち子供も仲良くなつたのだ。

今は鬼「」をしている。大人げないと思うが、負けたくない。

そのおかげで最終的には一人ともすぐ疲れてしまうんだけど。

でもこの生活はとても楽しい物だ。母が居て、父親が居て、友が居る。

前世で親が居なかつた俺にとつてはとても楽しい物だ。

ああーあとサー二ヤの姿だがとてもかわいい。将来美人になるであろう。今は美幼女だが。

まあ、そんな生活をしてとても楽しい人生を歩んでいるのだが、最近、僕の親とサー二ヤの親の会つ回数が多い。

まあ、サー二ヤと遊んでいられるからいいのだけど。

その後数日たつて。

父が

「これからは、お前に強くなつてもう、サー二ヤちゃんも一緒にから頑張れよ」

と言つてきた。

話を聞くと、どいつも僕の親と、サー二ヤの親は昔パーティーを組んでいて、世界を冒険していたようだ。

始め聞いた時は驚いたが、父やサー二ヤの父の体付きを見ればすぐ

解ら事だつた。

こうして、サーニャと僕を僕達の親が鍛えることが決まった。

この時3歳、いくらなんでも速すぎない?

## 1話（後書き）

次は親たちの裏話を載せたい出来なかつたらこのまま続ける。

取り合えず、がんばります。

……実はまだ主人公の名前を書いていないと「う事実。

……………どうしよう？

2話（前書き）

遅れですかみませんでした！！

修行をする、それは俺達にはびっくりすることじだつたが、父親たちの体付きを見れば何かしていたのは解る。

たぶん、冒険者系の仕事をしていたんだひつ。

実際のところ聞いてみたら親たちはみんなそろって楽しそうに冒険者だったころの話をしていたからな。

まあ、それで、修行の事だが、最初は走ったりなどの事をするだけのよつだ。

だがしかし、それは、父親たちが教えることであり、母親たちが教えるのは魔法らしい。

「こじで俺は内心。

『やつた～！魔力とかすごい楽しみだ～！』

と、思つていたんだが。それはサーニャも同じみたいで。

「魔法…おもしろそう…！」

と、ほしゃこいでいた。

びつから俺たけの母親は魔法使いとして、冒険をしていたらしい。

俺の父は剣を使つていて、サーニャの父はハンマーを使つていたらしい。

そして、俺の母は攻撃系の魔法使いで、サーニャの母は、治療・回

復系の魔法使いだったらしい。

この四人でパーティを組んでいて、アランクパーティとして、過ぎしていただらしい。

結構すごかったのね……父さん達。

ま、そんな訳で、今は魔法の修行をしていく。

最初は魔法を使つための魔力の確認らしい。

「それじゃ、始めるわよ。そりね……まずは集中してみて。」

「「はい」」

「うすす」として自分で自分の魔力がどれくらいか解るらしい。

集中、集中、集中…………ん？

集中していると、心臓のあたりに何かを感じた。

血液のような感じで……生温い水が心臓のあたりを中心に体中を循環している？

これが魔力なのかな？

「わあ～なんかすごいよ。なんか、体中がぽかぽかするよーーー」  
サーニャが言う。なんかすごい萌えた。

「そうね、それじゃあ、次のステップに進みましょうか

「それじゃ、まずは魔法についての勉強かしら？」  
僕の母さんが呟つ。

「わづね、まずは種類、属性、適性などね」  
サーーヤの母さんが呟つ。

サーーヤの母さんはおひで、僕達が魔力の事を認識した時に来た  
のだ。

ついでに壁といいは僕の家の部屋の一室。うちうじび開いていたの  
で勉強部屋として使つていい。

「じゃあここへもせておせこ？」

「うそ、わづなサーーヤ、今から教えるから良く聴きましょわづね？」  
「うそー。」

そこから、母親による魔法講座が始まるのだった。

「まず種類だけど、大きく分けて4つあるわ。  
まあ、攻撃系。これは魔法で相手に直接ダメージを与える技よ。  
次に治療・回復系。これはその対象の傷を治したり、病気を治す事  
が出来る技よ。

それと弱体化・妨害系これは相手の動きを封じたり、相手をマヒや  
毒にさせる事が出来るのよ。」

そして最後に援護・強化系これはその対象の力や丈夫さとかを強くする事よ。」

「次に属性ね属性は火・水・土・植・雷・風・聖・邪があつて、火・水・土・植の派生形で炎・氷・地・木があるわ。

力関係を表すと

火は水に弱く、水は土に弱く、土は植に弱く、植は火に弱い。また雷は風に強くもあるが弱くもある、逆に風も雷に強くもあるが弱くもある。そして聖も邪に弱くもあるが強く、逆に邪も聖に弱くもあるが強くもある。

また、雷と風は聖と邪より弱い。そして炎・氷・地・木は火・水・土・植には強いけど、雷と風とは同じくらいの強さ、聖と邪には弱い。

また火・水・土・植と同じように、

炎は氷に弱く、氷は地に弱く、地は木に弱く、木は炎に弱い。解つた?」

こんな風に説明されても普通解らねえよ!!

だけども、成長期だからかすぐ理解が出来るんだけど!!

つまりは

火 水 雷 風 炎 氷

植土 聖邪 木地

【弱い】

火・水・土・植く炎・氷・地・木=雷・風く聖・邪

【強い】

つてことだろ。

理解したのはサー二ヤも同じよつで、

「わかつた！！」

と、言つてゐる。

「それじや、最後に適正ね。

これが一番楽に覚えられるんだけども…………そうね！実際にやりましようか！」

そして連れてこられたのは、山の中。

「取り合えず、ここで呪文を教えるから。呪文に魔力を混ぜて言つてみましょー！」

呪文に魔力を混ぜると書つるのは呪文を言つときこ、口から魔力を出す様にすることである。

ここで教えられたのは。

火の初級魔法・【fire】  
水の初級魔法・【water】  
土の初級魔法・【sat】  
植の初級魔法・【Plant】  
雷の初級魔法・【Thunder】  
風の初級魔法・【wind】

だつた。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n9840y/>

---

とある男の旅物語

2011年12月26日20時56分発行